発行所
株式会社　中外日報社
©中外日報社2017
京都総本社　〒601－8004　京都市南区東九条東山王町９　電話（075）671－3211（代）　FAX（075）671－2140
東京本社　〒113－0033　東京都文京区本郷４－９－13　電話（03）3816－4721（代）　FAX（03）3811－5222
http://www.chugainippoh.co.jp
Eメールhenshu@chugainippoh.co.jp

中外日報

購読料　一月　三、二〇〇円　六月　一九、二〇〇円　一年　三八、四〇〇円

社寺建築設計監理
株式会社　社寺建築研究所
代表取締役　東　進
〒301-0042　茨城県龍ヶ崎市長山8－13－11
TEL 0297-85-2000　FAX 0297-85-2200
URL http://www.shajiken.co.jp

9項目要望の答申書提出

被兼務寺院の住職対策など

妙心寺派　宗務所長会

臨済宗妙心寺派の宗務所長会は16日、栗原正雄宗務総長に、10年後の宗門のあるべき姿に関して9項目を要望する答申書を提出した。先住職、副住職、高齢得度者の中の有資格者を被兼務寺院の住職に積極的に登用することなどを検討するよう求めている。

この他、宗務本所の建て替えを含む財源確保のための賦課金の見直し▽寺院の解散合併に伴う事務費用の助成とその財源確保▽寺班等級の基準見直し▽正確な花園会員名簿提出のための方策▽教区・部の再編成▽宗務所・支所規程の再検討▽無相教会を手始めに進達書類の簡素化▽僧侶・寺庭婦人の積極的な研修会参加の方策――を要望事項として挙げた。いずれも寺院が置かれた現状を踏まえ、「小さな組織、シンプルな組織、強い組織」を求めている。

答申書では、人口減少や過疎化の進行で被兼務寺院が増加し、「部内活動が成り立たない部が発生している」と懸念を表明。宗教離れは都市部、地方を問わず進み、また一部では法類関係が名ばかりになり、宗門の信頼を失墜させる僧侶の違法行為が起きていると指摘している。

栗原総長は、僧風刷新会議の3専門部会について「委員に限らず、いろんな方面から意見を頂きたい」と所長会に諮問。答申の内容は今後、各専門部会で検討する。

答申書は15、16日に宗務本所で定期所長会を開いてまとめた。

内局との協議会で、所長から「布施に関するトラブルが多いのは、布施の目安が示されていないから。葬儀の導師や年忌の法事などの布施について、本山で一定基準を設けてほしい」と要望が出た。葬儀の簡素化が進み、従来通り檀信徒に「志納」と伝えていると布施収入の低下を招き、寺院運営が困難になる可能性があるとの指摘だった。

これに対し、上沼雅龍総務部長が「布施が対価になることを恐れる。責任役員会で寺院運営が可能になる布施の在り方の協議を」と応答。山本文匡教学部長は「私事だが、自坊では葬儀や法事収入を公開し、布施の額が分かるようにしている」として、会計の明朗化が檀信徒の協力につながると理解を求めた。

（萩原典吉）

中外日報創刊120年

ほっとインタビュー

「言葉遊び」としての俳句を提唱する俳人

坪内　稔典さん（72）

庶民の文化、寺で句会を

「たんぽぽの『ぽぽ』のあたりが火事ですよ」――言葉で遊べる楽しさを知ってほしいとネンテンさん。五七五に心豊かな社会への可能性を見る。（飯川道弘）

――妙満寺（京都市左京区、顕本法華宗総本山）で開かれている句会は今年で10年になりました。

坪内　妙満寺は俳人・松永貞徳（1571～1654）が初めて俳句の会を開いた句会発祥の地です。俳句を作る人にもまだあまり知られていません。それまで開かれていたのは連歌の会でした。連歌の会をまねして俳句の会をしようという機運が盛り上がり、江戸時代の初めに行われたのです。

連歌は源氏物語や古今和歌集、伊勢物語など古典の言葉を使って作るので、そういう教養がないと作れない。ところが江戸時代の初めにあまり教養はなくても自分たちで表現したいという人が増えてきて、その人たちが俳句に興味を持ったのです。

俳句はもともと連歌の会が終わった後の余興の文芸でした。酒の出る「2次会」で連歌をすると、くだけた五七五になる。読み捨てで記録もされなかったのですが、次第にそういうのも面白いと『犬筑波集』などの記録の本も出て、俳句を作る人が増えてきた。そういう人たちが集まり、自分たちは連歌じゃなく俳句をやろうと俳句の会が始まるのです。

――俳句をたしなむ宗教者も多いですね。

坪内　俳句を好んだ夏目漱石は、ヨーロッパは俳句のようなものはない、だから大事にすべきだと死ぬまで俳句を作りました。近代の文学者で俳句を大事にした珍しい人です。俳句は漱石の言葉でいえば「風流」ということになりますが、日常を超えて心を現実から別の世界へ少し向ける。その楽しさがとてもいいと言うのです。

この世にだけ関わらず別の世界に触れ合う。宗教的なものと詩歌や俳句はとても近く、似ているところがありますね。

句会は人が集まってくるでしょう。本当はもっとお寺が句会の場所になればいいと思っています。お寺が句会の場になるのは、庶民の文化の在り方として自然なことではないでしょうか。

（12面につづく）

1944年、愛媛県生まれ。立命館大大学院文学研究科修士課程修了。京都教育大・佛教大名誉教授。俳句グループ「船団の会」代表。2010年、『モーロク俳句ますます盛ん』で桑原武夫学芸賞を受賞。主な著書に『俳句の向こうに昭和が見える』『カバに会う』『ヒマ道楽』など。

きょうの紙面から

▶ 来年度は全教区で「ご親教」周知の集い　本願寺派常務委　＝３面
▶ 京都・東山３本山巡りに朱印帳登場　地域活性化へPR強化　＝４面
▶ 会社帰りに平日夜の坐禅体験会　大本山円覚寺　＝５面
▶ 〈地域〉キラリー　大阪市阿倍野区の真宗大谷派即応寺　＝８面

広く深くつなぐ　創刊120年　chugai

中外日報購読のお申し込みは、フリーダイヤル0120―015―177へ

あまん　きみこの新作絵本!!
花まつりにいきたい
きょうは花まつり、
おしゃかさまのおたんじょうび
「ぼくも 花まつりに いきたいなぁ」
そんなひとりぼっちの
さくらの木のまえに
ふしぎな男の子があらわれて……。
文　あまん　きみこ
絵　羽尻　利門（はじり　としかど）
オールカラー／32頁
オリジナル判 縦 236× 横 210mm
対象年齢：小学校低学年
本体 1,200円＋税

ブッダの生涯を絵と言葉で綴る〈大人の絵本〉
ブッダ
文・川西　蘭
絵・長尾みのる
文学性・芸術性豊かな言葉と絵で編まれた
大人のための新しいブッダ伝
現代の大人たちに、絵と言葉でわかりやすくブッダの80年の生涯とそれを貫く深い慈悲を伝える一冊。
第一章「ブッダの出現」第二章「伝道の歩み」
第三章「涅槃からの始まり」

A5判/184頁/
定価 1,200円＋税

本願寺出版社　0120-464-583　FAX 075-341-7753　〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル（西本願寺）
http://hongwanji-shuppan.com/
発送梱包手数料別（税込3,000円以上は無料）